

**エントリー名：中部中学校 校長 佐藤 裕一**

**学校名：大分県別府市立中部中学校**

**活動名：夢を持とう！ドリームスクール！**  
**学校地域保護者協働で夢や希望を育む取組**

**解決すべき課題：**

- 1、中1ギャップで1年終了時の長欠生が多い。入学時から夢・希望をもてない。
- 2、生徒の自己肯定感が低い。夢や希望を持ってない。今日の課題が多く求められる資質能力が多様化、教職員だけの教育では限界がある。(令和3年度教職員意識調査「本校の課題」より)
- 3、学校運営協議会が形式的で地域支援が進まない。

**目標・方針：目標：「社会に開かれた教育課程」に向け、学校運営協議会と地域学校協働本部との一体化を図ること**で地域支援を効率的にすめ、生徒の夢を育む。

- 1、中1ギャップを認める声かけで心の居場所づくり、地域支援で登校支援ルールの整備と地域の見守り、不登校生の居場所としてのオンライン支援ルーム
- 2、夢を持ってない、今日の課題の解決。地域の先生の授業である「ドリームスクール」を教育課程に位置づけ。
- 3、学校運営協議会が形式的。熟議中心へ、協働本部と一体化の仕組み作りで効率的に学校支援

**活動内動** (A~D) は右中部中学校模式図内の (A~D) に対応

- 1、**学校による心の居場所づくり** (心の居場所) 教職員による生徒を認め褒める取組 **A**
  - (学校の居場所) 登校支援ルーム新設運用、(心の居場所) オンライン支援ルーム開催 **B**
- 2、(1) **地域による生徒の心に火をつけるドリームスクールの実施 C**
  - 「ドリームスクール」とは地域の先生の授業の総称。教育課程に位置付けた年間のべ92名の地域の先生による授業。地域とのプロジェクトで実施。
- (2) **保護者による生徒の心に火をつけるガチンコスクールディの実施 D**
  - ガチンコスクールディはPTA主催イベントで全校対象の職業講話
- 3、**学校運営協議会と地域学校協働本部との一体化の取組**
  - 学校運営協議会の熟議で取組の決定
  - 熟議で決定した取組の実施

① **生徒から元気をもらう地域との意見交換会(学期一回)**  
 ② 「不登校」親の会の定期開催 (7月・9月・12月・2月)  
 ③ 登校支援ルーム 地域の見守り 毎日

子どもから元気をもらう地域との意見交換会(定期開催)

**取組の過程：**学校では **A** のように動機付けのため **生徒を認め褒める取組を全教職員で行った**。地域は **B** のように学校課題解決への支援として登校支援ルールの整備・生徒の見守り、そして、**C** のように **教育課程に位置付けられたドリームスクールの支援を行った**。保護者は **D** のように一大イベントとして全校生徒全員を希望職業に分けた職業講話であるガチンコスクールディを準備実施した。地域と保護者の

支援のおかげで教師の事務的負担が減り、生徒に夢を語る時間がふえた。ただ逆に保護者・地域の負担はかなり大きくなった。しかし、定期的実施した「地域、保護者と生徒の意見交換会」を通じて大人が子どもから元気をもらい、子どもへ夢を持たせる取り組み、心に火をつけるさまざまな取り組みを地域保護者を巻き込んで行うことができた。その結果、**E** のように子どもが夢を持ち、目的意識が生まれた。そして、それが **F** のような中一ギャップの解消にもつながった。 **中部中学校取組模式図**



**活動の成果：1年生欠席経年**

欠席日数	60日-100日	100日以上	60日以上
令和2年度末	4	7	11
令和3年度末	2	1	3



1、**中1ギャップの解消 F**  
 ○大幅な改善 60日以上長欠 11人→3人

2、**夢を持ってない E**  
 1学期末生徒アンケート  
 ○夢がある約80%  
 ○ドリームスクール役立つ90%

	肯定的	肯定的	肯定的	肯定的	肯定的	肯定的	肯定的	肯定的	肯定的	
1 夢や目標を持っていて、夢や目標を持つようになった	1.5	52%	2.7%	1.2%	9%	2.5	40%	3.7%	1.7%	6%
2 夢や目標を持っていない	3.0	4.1%	3.8%	1.5%	6%	1.5	4.8%	4.1%	0%	2%
3 ドリームスクールの授業が役に立つ	2.0	3.9%	4.9%	0%	3%	2.0	3.9%	4.9%	0%	3%
4 ドリームスクールの授業が役に立たない	3.8	5.4%	4.0%	4%	2%	3.8	5.4%	4.0%	4%	2%

3、**学校運営協議会が形式的** 右のように進め方を整理し、一体化への仕組みづくりを行った。熟議を取り入れるとともに**生徒との意見交換会を実施した**。委員の声 **「実際に中学生と話すことで学校運営協議会の取組に生徒の姿がイメージできわくわくした。」**

